

鉄鋼スラグ撤去後の土壌調査を

質問

旧八開地区（赤目町）野積み鉄鋼スラグ問題には、平成14年から情報公開請求をしたり、環境省懇談をして取り組んできた。しかし、良い方向に進まないため、平成19年7月に鉄鋼スラグからにじみ出た水の水質調査をし、8月に有害物質汚染の発表をした。赤目町の鉄鋼スラグは、やっと9月末に撤去が終わると聞いている。撤去後に土壌調査をすべきだが、県と市の方針は。

市民生活部長

県の方針は、聞いていない。



吉川三津子 議員

市としては、県と業者に調査を要望していく。

質問

土壌調査の方法や市民の立ち会いについても要望すべきだ。市の考えは。

市民生活部長

表土をとり、有害物質が出たなら、更に土壌を調査するなどの方法や、市民の立ち会いも要望していく。

斎場周辺道路は、ムダな道路



草が生えた斎場周辺道路

質問

斎場予定地の内周道路（通称「額縁道路」）は、農業振興地域除外手続を逃れるために造られたもので、脱法行為ではないかと平成19年9月議会で指摘した。他の議員にも賛同いただき、最近では市民の方が提訴したり、この9月議会には請願も出ている。

質問

「必要性・将来性・効果」などを総合的に判断している。

額縁道路の要望は、誰からいつ、どこで受けたか。

経済建設部長

西保町の役員から口頭で聞き、だれがどこでいつ聞いたかは、記憶にない。

質問

口利き問題も多い中、地域要望か個人要望かの判断は。

経済建設部長

西保町の場合、区会があり、その役員からの要望は、地域要望として承っている。

質問

金額が1億円以上にも及ぶ道路を、文書もなく受け入れているということだ。

1年半経って使われていない道路を、なぜ斎場工事より先行して工事したのか。

経済建設部長

国道155線のバイパスにもなる。

経済建設部長

要綱などの明文化したものはない。要望の早期のものか。